

ホール駐車場巡回点検4箇条

1. 1時間に最低1回の「定期巡回点検」を実施する。

屋外に駐車した密閉状態の車内温度は、曇り空の晴れ間の僅かな日差しであっても急激に上昇します。1時間に最低1回の「定期巡回点検」を基本に、当日の天候や駐車状況等に応じて回数や人員を増やすなどして早期発見に努めましょう。

～ワンポイント～

巡回点検用の日誌を用意し、巡回の都度、天候・駐車台数・特記事項等の記録を付け、責任者への報告と次の巡回担当者への引き継ぎを行いましょ。記録と報告は巡回点検の意識を高めるとともに、万が一事故が発生した場合には、行政当局が当日の状況を検証する際の重要なデータとなります。

2. 車内の状況を1台1台確実にチェックする。

駐車場の巡回点検を実施していながら車内放置を発見出来ずに事故に至るケースがあります。巡回点検を実施しても“車両を一瞥する程度”では、“チャイルドシート”や“ベビーかご”の中で毛布や衣類を掛けられた状態の乳幼児を発見することは困難です。

～ワンポイント～

確実にチェックした車両にはワイパー等に“啓発チラシ”を挟む等、点検済みであることを一目で判別出来るようにしておけば、次の巡回時には無印の車両（新規）を重点的にチェックすることが出来ます。点検の効率化と早期発見に効果的です。

3. スモークガラス・着色フィルム装着車には特に注意する。

車内放置事案の多くは、スモークガラス・着色フィルム装着車で起きています。外部から見えないように子供を放置する“無責任な親の心理”が垣間見えます。

～ワンポイント～

スモークガラス・着色濃度が高いフィルム装着車の車内点検には「懐中電灯」が効果的です。大型（単1形乾電池6本程度使用）の懐中電灯で照らせば車内の様子を確認することが可能です。巡回点検には「懐中電灯」を必ず携帯しましょう。

4. 車内放置発見時の対応をマニュアル化し、迅速な対応を行う。

熱中症への対処で一番重要なのは一刻も早く治療を受けさせることです。車内放置を発見した場合には、迅速且つ適切な対応が求められます。

～ワンポイント～

いざと言う時に慌てず対応出来るよう発見時の手順をマニュアル化し、実際に訓練しておくことが大切です。また、店内放送で呼び出しを行っても保護者がすぐに名乗り出るケースは稀です。万が一、車内の子供が「異常発汗」、「痙攣」、「嘔吐」「過呼吸」等の症状を発している場合には、直ちに窓ガラスを割るなどして救出作業を行うとともに、「110番通報」及び「119番通報」してください。